



サステナビリティへの 真摯な取り組みが評価され、 EcoVadisの「プラチナ」評価を 3年連続で受賞

スウェーデンにあるホルメン・イグスンドの工場では、代表的な板紙製品である Invercote (インバーコート) を製造しています。そして今年もそこで再び、EcoVadisの最高レベルの評価「プラチナ」を獲得することができました。「プラチナ」は、評価対象の全企業のトップ1%にしか与えられない評価です。しかも評価対象の企業数は年々増加しています。

国際的評価機関であるEcoVadisは、企業のサステナビリティに関する実績を評価しています。2022年には、160カ国の200を超える業種を対象に、約3万社の企業を評価しました。

ホルメン・イグスンドは、透明性をもって自社のサステナビリティに関する実績をまとめ、伝えるために、早い段階からEcoVadisの評価に参加しています。

「私たちがEcoVadisに参加したのは、透明性が重要であると考えているため、そして私たちのサステナビリティに関する実績をお客様と関係者の両方に伝える手段を必要としていたためです。そのお客様や関係者も、これが大切な取り組みであると認識しています」と、ホルメン・イグスンドのサステナビリティディレクターである Johan Granås は述べました。

「気候変動は現代の最大の課題です。そのなかでお客様には、私たちが提供するパッケージ資材は間違いなく最高水準の持続可能性を確保したものであると安心していただきたいと考えています。私たちは、透明性の高い包括的なレポートを作成することを含め、サステナビリティに関するすべての側面を真剣に検討する必要がありますのです」

その起源を1685年にまで遡るホルメン・イグスンドは、スウェーデンの森林業界のグループであるホルメンの傘下にあります。このグループは、循環性と森林の持続可能な管理に基づいて、ビジネスモデルを構築しています。

「私たちは近郊の森林から木材を、地元の河川から水を調達しています。そしてこの河川は加工のための電力の供給源でもあります。つまり、環境の持続可能性は私たちのDNAに組み込まれているといっても過言ではありません。そして、この地域の最大の企業として、私たちは社員を大切にできる責任だけでなく、地元のコミュニティを大切にできる責任も負っています」と、Granås は語ります。

さらにGranåsは、EcoVadisの「プラチナ」評価がトップ1%の企業にしか授与されないことから、今後はこの獲得がますます難しくなることにも触れました。

「サステナビリティについては、体系的で大規模な取り組みが増えてきています。これ自体はもちろん良いことで、環境の目標を達成するためには極めて大切なことです。しかし、あらゆる活動が改善され

ていけば、当然ながらこの最高レベルの評価を受けることは難しくなっていきます」

より持続可能性の高いパッケージ資材を求める声が増えていくことで、ホルメン・イグスンドも引き続き成長していくでしょう。しかしその生産能力を拡大するか否かは、サステナビリティの観点から慎重に検討していきます。

「私たちは、環境に悪影響を及ぼさない範囲で事業を行うよう、常に気を付けなくてはなりません。

さらに、生物多様性を犠牲にすることなく、森林から製品の製造に必要なだけの木材を調達するとともに、水資源、排気、そしてもちろん従業員の職場環境にも気を配っていく必要があります。それらすべてを考慮したうえで、私たちは次の施策を決定していきます。これが、事業の中核にサステナビリティを置く私たちのやり方なのです。

高品質のフレッシュファイバー板紙の市場トップクラスのサプライヤーとして、私たちは、持続可能な製造をリードするという点でも、自社の行いに透明性を持つ手本になるという点でも、重要な役割を担っていると認識しています。お客様にとって責任ある持続可能なパートナーになるという私たちの目標は、その認識があってこそ達成できるものなのです」と、Granås は締めくくりました。

